

「福祉の増進を図る」論戦・申し入れ

地域から署名運動始まる

一般質問で、工藤議員・村上議員が取り上げる！

釧路市の市民環境部から、桜ヶ岡・春採・大楽毛の各支所及びコアかがやきの鳥取支所分室を、2023年2月末に廃止したい旨の報告がありました。12月議会での委員会報告や、今年1月に「住民説明会」を予定しているとのことでした。

市の説明では「人口が減少し、住民票や印鑑証明書などの申請数が減っており、コンビニでもマイナンバーカードがあれば取得できるため」としています。市民からは「マイナンバーカードは持っていない、コンビニで住民票を自分で取る高齢者はまだまだ少ない」「地域の市民サービスという点からも無くすべきではない」「廃止されたら、本庁舎まで取りに行

与党にも懸念の声

『支所の廃止』撤回を求める

くのは高齢者にとって大きな負担だ」といった声が多数寄せられています。

12月7日の民生福祉常任委員会の審査では、与党からも「カードの普及が進んでいない中での支所廃止は問題」との質問が集中。市民環境部は、今年1月から予定している市民説明会で「市民の意見を聞いた上で判断する」と答弁しました。多くの市民の参加で跳ね返しましょう。



市民が主人公
日本共産党

釧路市議団だより

発行：日本共産党議員団 <http://jcpsigi.com/>
釧路市役所本庁舎2階 TEL・FAX 0154-23-5212

2022年
1月号



日本共産党
釧路市議団 HP

このチラシは政務活動費で作成しています



市民団体申し入れ

昨年11月29日、いのちとくらしを守る釧路市民会議と釧路地区労働組合総連合は、市に対して予算と市政執行に関する要望書を提出、「福祉灯油（ぬくもり助成金）の実施」を求めました。

この冬の灯油価格は13年ぶりの高値、新型コロナウイルスで生活苦が広がる中で市民生活を直撃しています。管内で「福祉灯油」がないのは釧路市だけ。国も原油高騰対策を打ち出す中、市の対応が問われています。

「福祉灯油」実現へ
市民の声が大きな力

11月22日には共産党市議団も予算要望、この中でも「福祉灯油」を強く求め、12月議会的一般質問で村上議員が取り上げました。また、担当課への働きかけも強めてきました。

その結果、市は12月議会の直前に「原油価格高騰対策助成金」を決断したのです。

対象は住民税非課税、均等割のみの課税世帯と生活保護受給世帯（収入認定せず）で38000世帯、全体の4割になります。助成額は5000円で、実質的には福祉灯油の復活です。



市議団予算要望

「赤潮」被害対策と安全な市民生活求め、市長の姿勢を質す！

『赤潮』被害の対応を市にも求める！

9月から始まった太平洋沿岸の赤潮被害が深刻で、釧路・根室・十勝・日高各振興局の被害の合計金額が80億1,000万円にも達し、壊滅的な打撃を受けています。金額上はウニが多数を占めていますが、サケ・ツブなど幅広い魚種にも被害が確認されています。

桂恋で漁業をされている方は、海の水は真っ赤であったといい、ウニを採っている方は全滅だとおっしゃっていました。温暖化の影響で、海が以前とは変わってきていると、強く感じているといいます。

工藤議員は一般質問で、釧路市として被害を受けた方々に支援をすべきと求め、「国や北海道の支援策が公表されたあとに支援策を検討しているところである」との答弁。市としての対策は言及しませんでした。

学校現場を知らない？

タブレットを活用した授業を参観した後、意見交換の席で。

「(タブレットを使用すると)机が狭いのでは？」と議員が質問。「工夫して使っています」と答えた校長先生。ビックリです。机の広さは知らなかった？「教科書を開いて」「ノートに書いて」「タブレットの〇〇して」の先生の指示。キチンと並べた鉛筆が転がります。

数年かけて実施予定だったタブレット配置。現場の状況を抜きに「むりやり」進めたことが原因です。しかし、そうなることが分からなかったのでしょうか？

本格稼働したら騒音はなくなるというわかれていた釧路火力発電所ですが、1年経ってもたびたび騒音が続く近隣住民は悩まされています。昨年10月24日には81デシベルの騒音が出ました。釧路市と結んでいる公害防止協定では、日中の騒音規制は70デシベル。西村議員が「協定違反なので」と追及すると、「突発的に出てしまう騒音は規制の対象外」という驚くべき答弁。建設が検討されている防音壁



の効果についても、「やってみないとわからない」という心許ない返答です。このまま石炭火発を続けてよいのでしょうか。

住民の声

発電所近隣に住んでいます。発電所からは時折ジェット音のような猛烈な騒音が発生し、その音には恐怖を感じます。特に夜間にドンドンと低く重たい音が響くこともあります。その音で、すぐに眠りに付くことが難しいことも度々です。発電所には安全で静かな作業を行っていただくことを強く要望いたします。

騒音続く石炭火力発電所



厚岸町上空で飛行するオスプレイ

陸上自衛隊は、昨年12月4日から17日まで、矢臼別演習場など、全国各地の演習場で、レゾリュート・ドラゴン21という名称で米海兵隊と実動訓練を実施しました。矢臼別演習場に向かうため釧路市内上空をオスプレイが飛ぶ恐れがあるため、西村議員が市長の認識を問いました。「自衛隊からはどのルートで飛ぶのか通知はない。釧路空港や市内公道を使用するのは事情が違う。」と述べ、戦車の公道走行の時は市役所職員が現地の様子を確認していましたが、今回はそれさえもないことが明らかに。蝦名市長には国に物申す考えはありませんでした。

監視行動参加者から

12月6日、ついに矢臼別演習場に釧路方面からオスプレイが飛来し演習場西側に着陸しました。その後、川瀬牧場南側上空を150メートルくらいの高さの飛行モードであったという間に移動し、厚岸から太平洋に出て、三沢に向かいました。今回オスプレイが離着陸した場所は、夏場は牛の放牧地の近くでありヘリモードの音と機影に驚き暴走するのではという心配があります。(釧路連 山本事務局長)

危険なオスプレイ飛行